

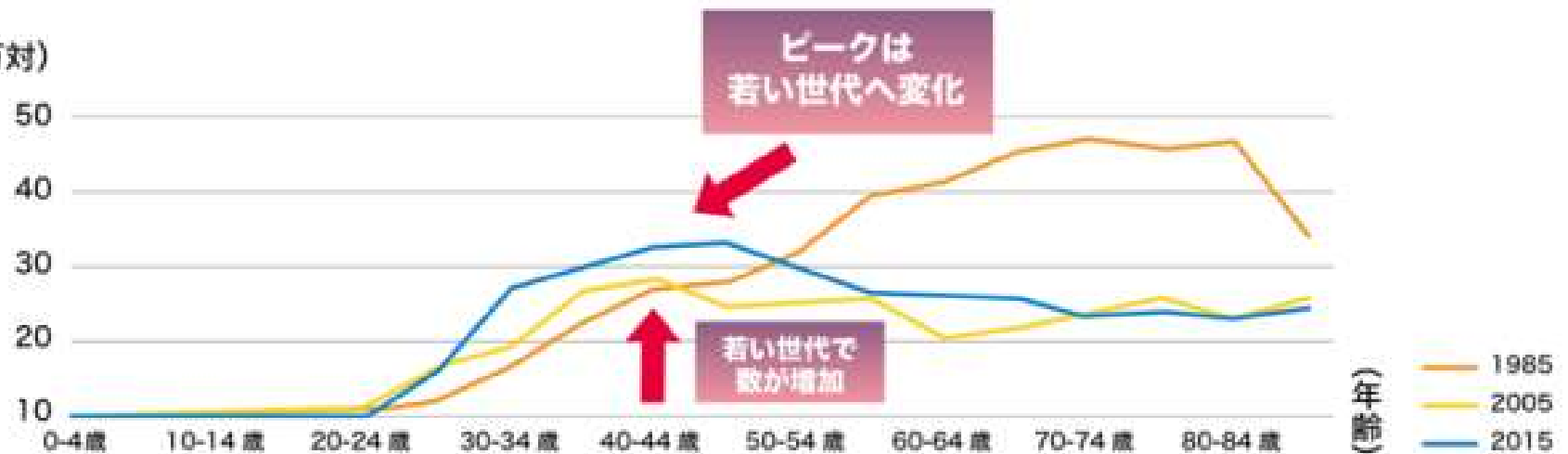
# 子宮頸がんの予防戦略

## 世界と日本…その後

柏崎総合医療センター 産婦人科 小林弘子  
ショートレクチャー 2024.7.4

## 子宮頸がんの年齢階級別罹患率 (上皮内がんを含まない)

(人口10万対)

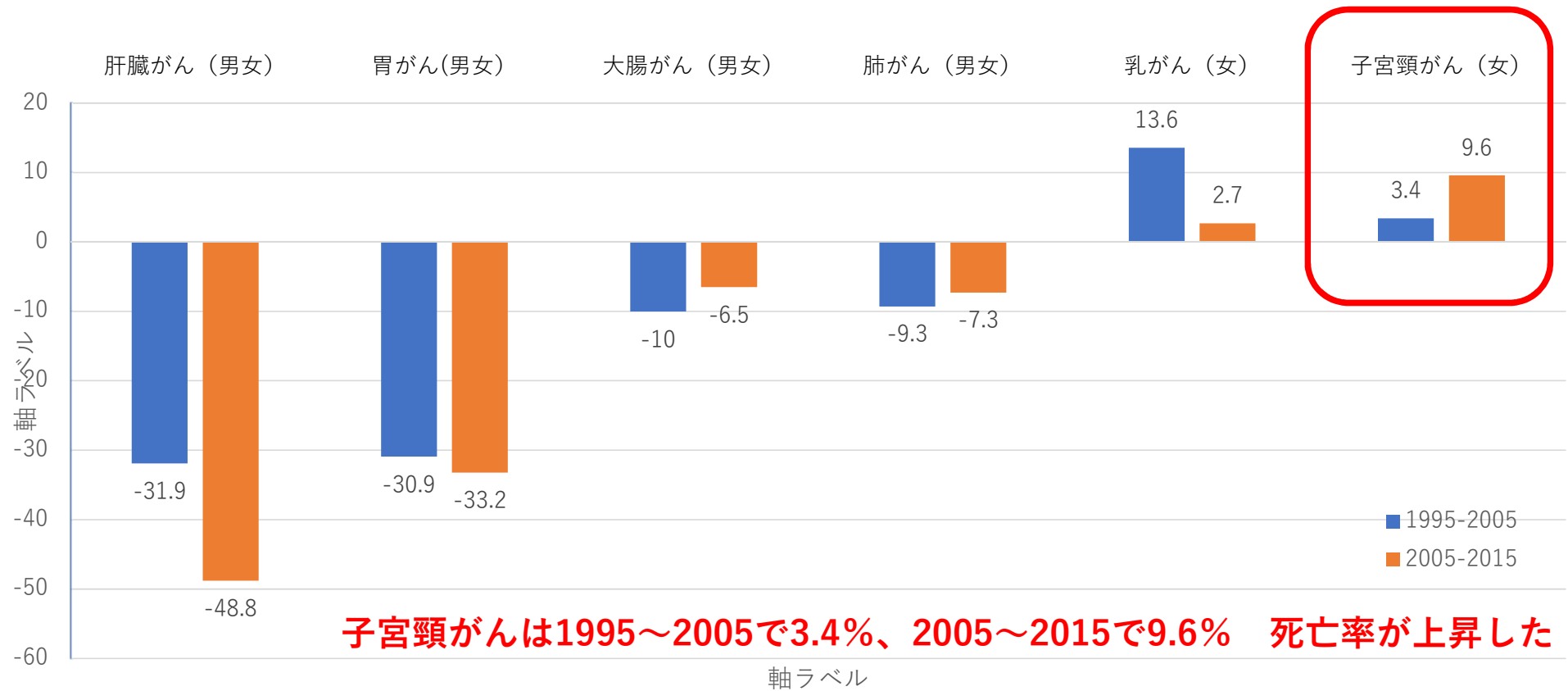


- ◆子宮頸がんは若い人がかかる病気に変化しています
- ◆30歳代で子宮頸がんになる人も増えています
- ◆子宮頸がんになると治療が必要となり、妊娠に影響します

(出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」データから子宮頸がんとしての報告数より作図)

© ISOG All Right Reserved

# おもながんの年齢調整死亡率の変化 (国立がん研究センター)



# 子宮頸がんの9割はHPVウイルスが原因

全部のがんの3%にHPV陽性

HPV関連がんとして、肛門がんの扁平上皮癌9割、や中咽頭がんの45%

- 現在220タイプの以上あるが、WHO認定するがんを誘発する高リスクタイプは13タイプ

16型, 18型, 31型, 33型, 35型, 39型,  
45型, 51型, 52型, 58型, 59型,  
68型

9価ワクチンで含む型 ⇒

軽度異形成の48.7%

中等度以上の前がん病変の89.4%

浸潤がんの93.6%に關与している

すなわち、9割の子宮頸がん患者の発症  
予防に貢献できる



# 子宮頸癌は感染症 検診とワクチンで防げる唯一のがん

2019 WHOは公衆衛生上の問題として、  
「子宮頸がんを排除できる予防戦略」を公表した。

15歳までに**90%**の少女が

**HPVワクチン接種**を受ける

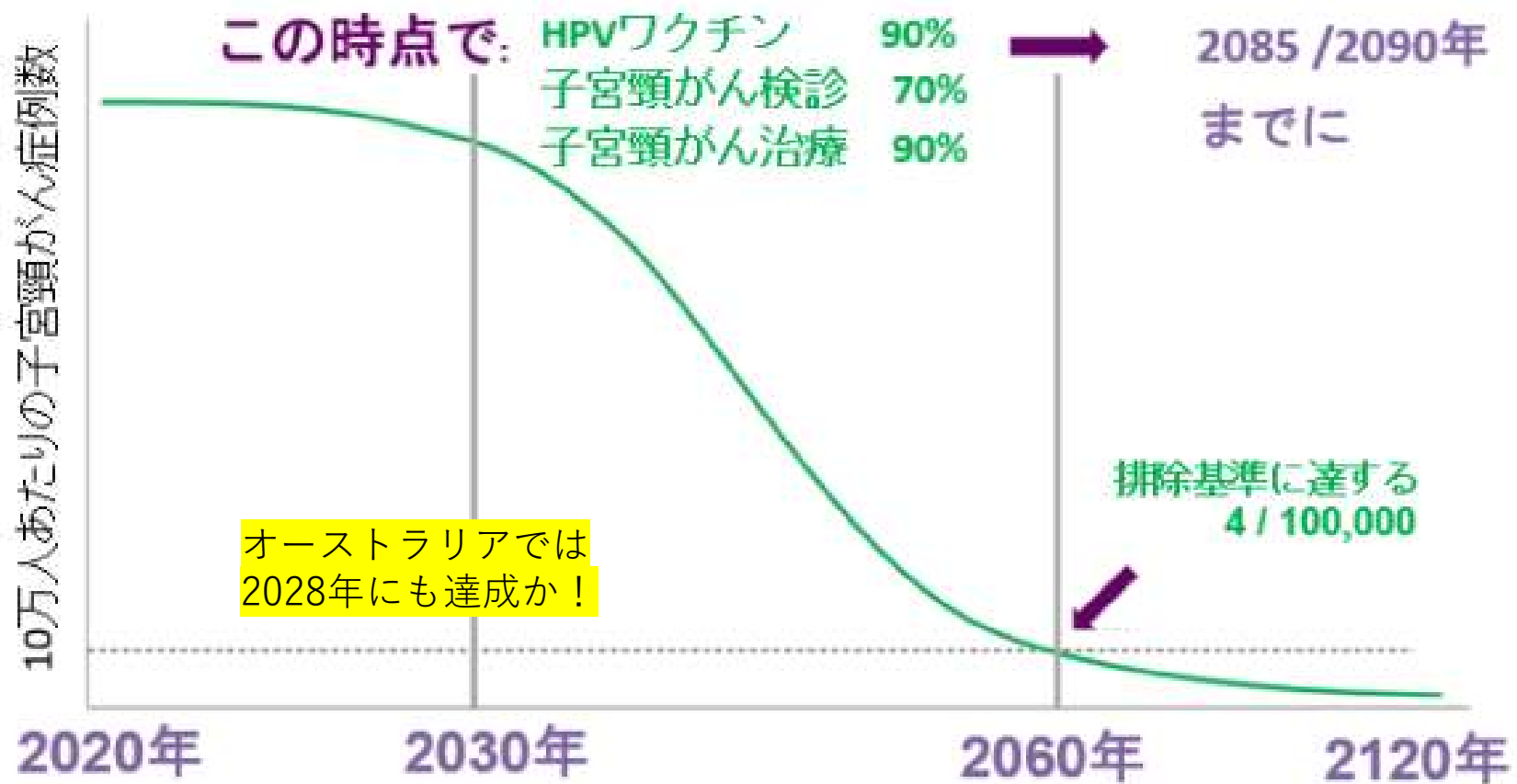
35歳と45歳で**70%**の女性が

**確実性の高い頸がん検診**を受ける

子宮頸がんと診断された女性の**90%**が

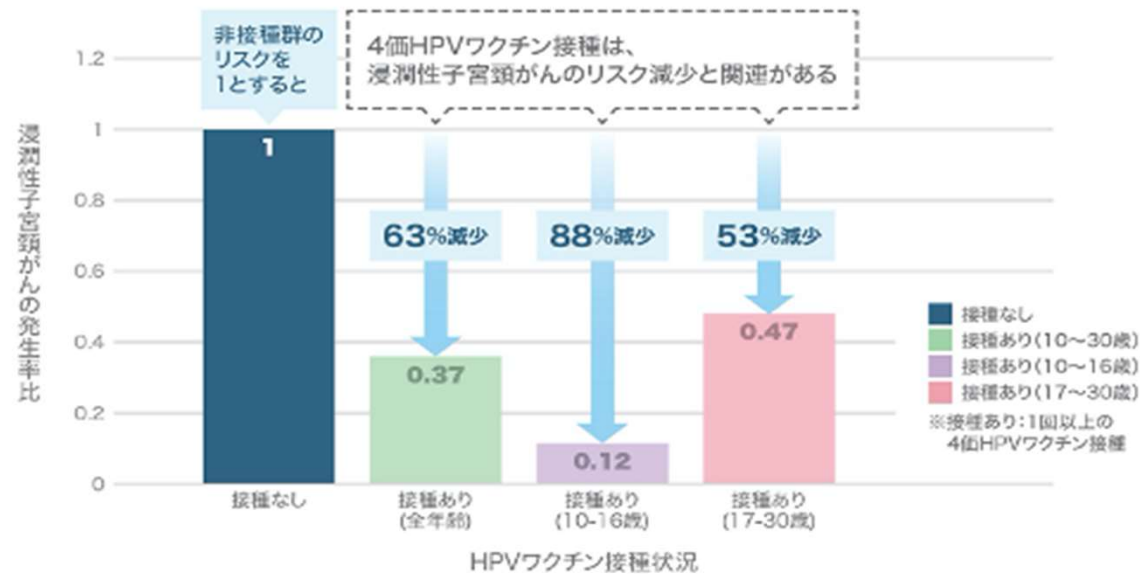
**適切な治療**を受ける

2030年にHPVワクチン、子宮頸がん検診、子宮頸がん治療のそれぞれの介入が、増加した場合の変化



# スウェーデン 167万人の調査

## HPVワクチン接種の浸潤性子宮頸がん減少効果<sup>1)</sup>

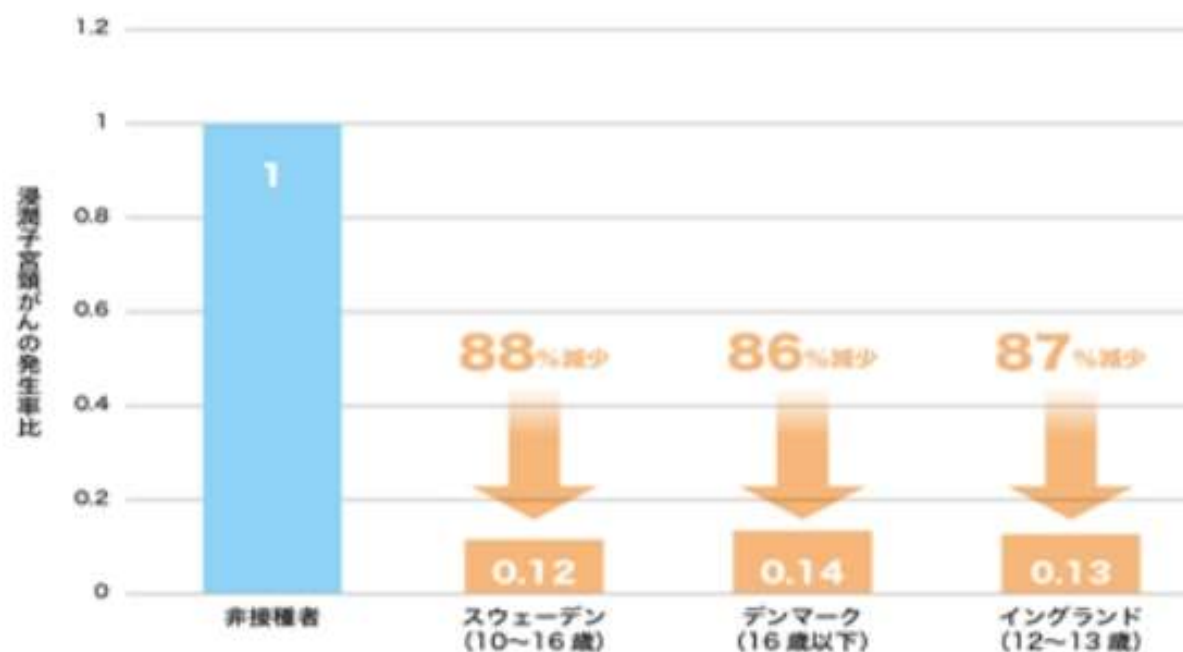


17歳になる前に接種した場合、浸潤性子宮頸がんになるリスクが**88%**低下

▶▶ 若年での接種の方がより効果的である

<sup>1)</sup> [出典: Lai J, et al. N Engl J Med. 2020 Oct 1;383(14):1340-1349より作成]

図2 定期接種世代での浸潤子宮頸がん予防効果

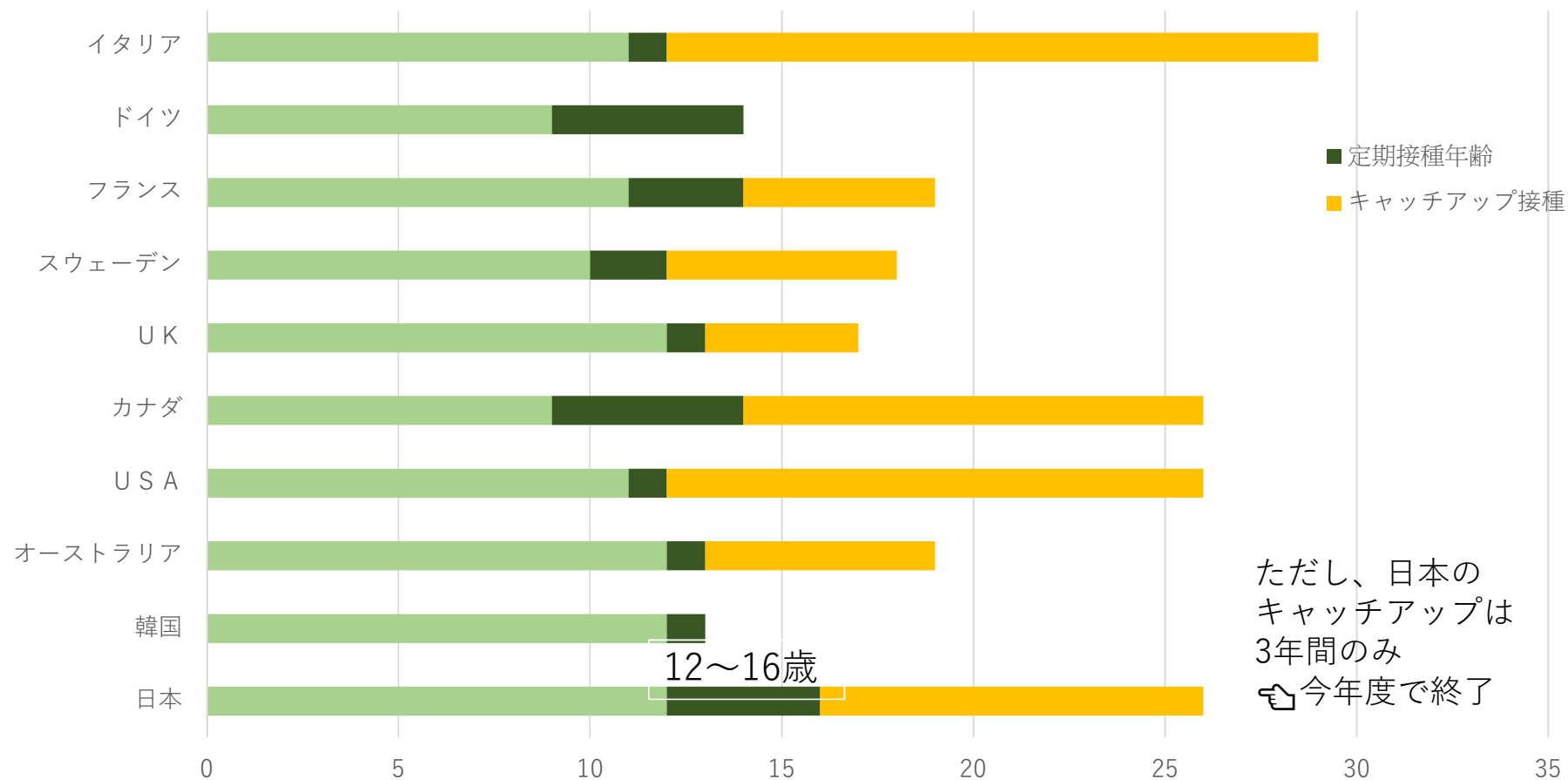


(出典: Lei J, et al. New England Journal of Medicine. 2020, Kjaer SK, et al. J Natl Cancer Inst. 2021, Falcato M, et al. Lancet. 2021 より作成)



# 世界の定期接種年齢

14歳までがほとんど



# 日本でのHPVワクチン接種の動き

2009 2価ワクチン発売開始

2010 公費負担開始

2011 4価ワクチン発売開始

2013.4月 定期接種化 →接種率70%へ

2013.3月副反応報道

2013.6月厚労省積極的勧奨中止 →接種率<1%

2019末 「定期接種は必要」と見解

2020.3月 9価ワクチン承認

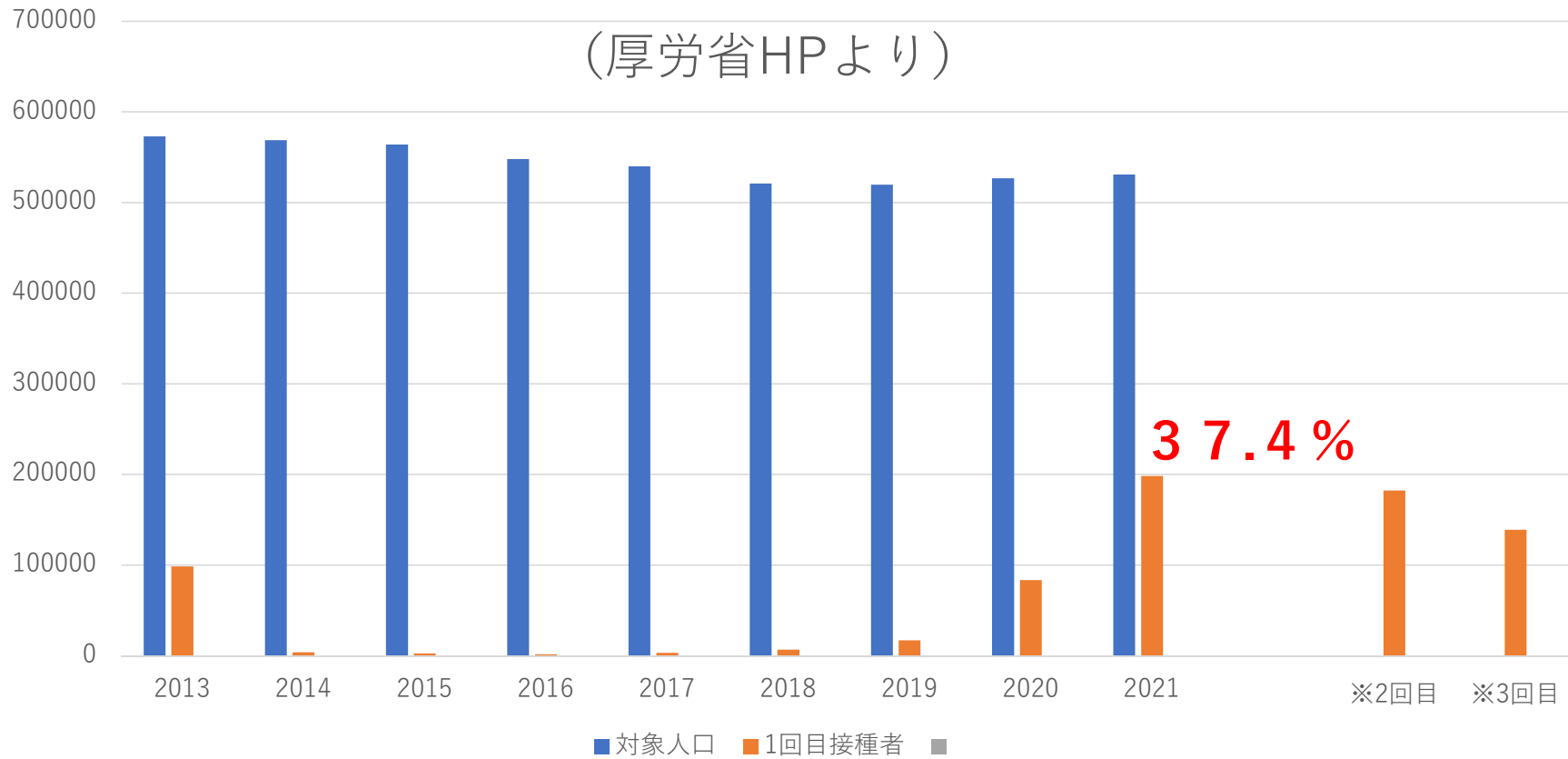
2020.10月 「個別に情報提供を」の通達

接種率1%未満に  
なったまま・・・

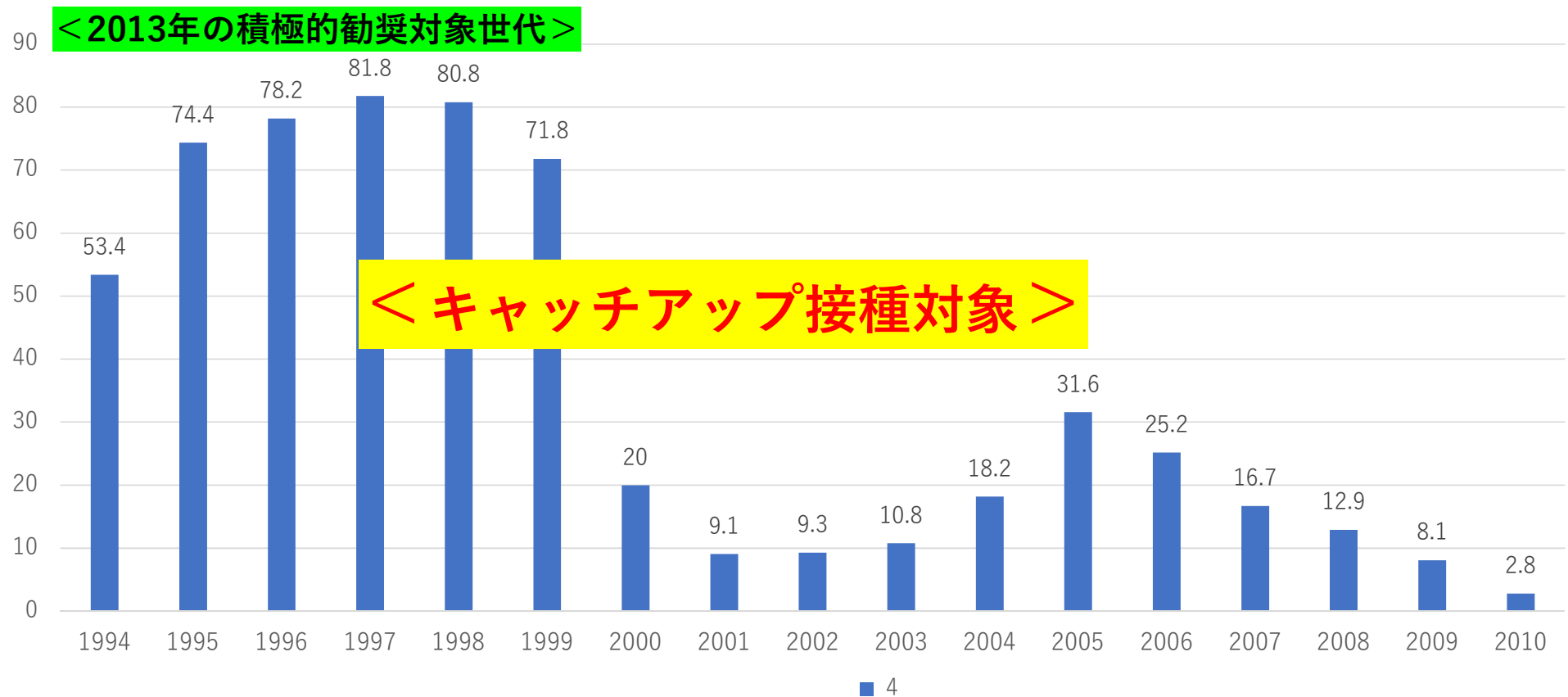
2022.4月 積極的勧奨再開

# 日本のHPVワクチン定期接種1回目実施数

(厚労省HPより)



# 生まれ年別の累積初回接種率% 2022年度まで



# 日本でワクチン接種が進まない原因

子宮頸がんやHPVについての理解が不十分である

旭川医大での調査 接種対象者の半数しか知らなかった  
安全性に漠然と不安を持っている

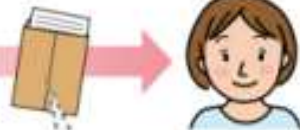
2013のメディア報道から理解が進まない

キャッチアップ対象者の多くが進学や就職で地元を離れている  
住民票のある自治体から、住民票の住所に接種券は届く  
接種の時間がとれない

**接種者と特に保護者への啓もうが急務**

## 名古屋スタディーについて

71,177人を対象としたアンケート調査  
(29,846人回答)



対象:  
1994-2001年産生まれの女子  
※HPVワクチン無料接種対象者

### 質問内容

◆「24項目の症状」の有無

24項目の症状による病院受診の有無・頻度、  
学校の出席に影響したか等

### 24項目の症状

1	月経不順	13	なかなか眠れない
2	月経量の異常	14	異常に長く寝てしまう
3	関節やからだが痛む	15	皮膚が荒れてきた
4	ひどく頭が痛い	16	過呼吸
5	身体がだるい	17	物覚えが悪くなった
6	すぐ疲れる	18	簡単な計算ができなくなった
7	集中できない	19	簡単な漢字が思い出せなくなった
8	視野の異常	20	身体が自分の意志に反して動く
9	光を異常にまぶしく感じる	21	普通に歩けなくなった
10	視力が急に低下した	22	杖や車いすが必要になった
11	めまいがする	23	突然力が抜ける
12	足が冷たい	24	手や足に力が入らない

### 結果

24項目全ての症状において、ワクチン接種後にその発症が増える結果は得られなかった。  
また、ワクチン接種者では、3つの症状（月経量の増加・月経不順・ひどい頭痛）で病院への受診が増えたが、生物学的関連性に起因するものとは考えにくい。

### 結論

**HPVワクチン接種と、  
報告されている24の症状発生  
との間に因果関係は示されな  
かった。**

## ワクチン接種後の副反応について

- 2015 厚生労働省の副反応検討部会報告で、接種後の多彩な症状は「機能性身体症状」であるとの見解がされた。  
約338万人対象（延べ890万回接種）  
→未回復症例 約5人/10万人（0.005%）
- 全国疫学調査で、思春期の女子にはワクチン接種の有無にかかわらず、多様な症状を呈する人が一定数見られることも判明している
- しかし、ワクチン接種後の局所の疼痛や不安などが機能性身体症状を引き起こすきっかけとなったことは否定できない。
- WHOはワクチン安全性に関する専門委員会GACVSが継続的にデータを解析し、「安全性は極めて高い」との見解を出している

# 世界と日本の子宮頸がん予防の比較

## HPVワクチン

世界124か国で定期接種化  
より若い年齢で開始  
男女接種も27か国で始まる  
9価ワクチン導入  
3回接種→2回にした国も  
…定期接種ではあるが  
一時、積極的勧奨を中止した  
結果、接種率70%→1%未満  
現在も約30%

## がん検診

先進国では70-80%が受診  
…日本では40%程度  
細胞診（感度70%）単独より  
HPV検査（感度100%）に  
細胞診は2次検査で行う国も。  
ワクチン接種率が上がったため、費用対効果で回数減少、年齢上限をも  
うける方向に。  
…検診方法、間隔、上限も含め、  
検討が続いている



# HPVワクチンの世界の現状

## 100か国以上で定期接種化

- スコットランド 定期接種率90%
- オーストラリア 国家レベルで予防接種歴を管理  
男女の学校接種
- 米国 女性へのワクチン接種効果と高い検診率で、HPV関連癌では、子宮頸癌より、男性の中咽頭癌が多くなった
- 男性への適応 4価ワクチンあり
- 日本では定期接種をのがした世代へのキャッチアップ接種は3年間のみ だから、2024年度に高校1年生相当の女子も、公費で接種できるのは2025年3月までです！ 自費では1回約3万！

# まとめると

- 子宮頸がんは検診とワクチンで排除できるがん
- 世界は着実に実現に向かっている
- 日本は先進国で唯一の増加国になるおそれ  
ワクチン接種率が増えない  
しかも、接種時期が遅い、女子だけが対象 さらに検診率も低い
- **キャッチアップ接種**の期限が迫っている（2025年3月末まで）  
1997年4月2日生まれ～2008年4月1日生まれ **今年16～27才**  
3回済んでない人対象 1, 2回だけの人でもOKです  
→**2024年9月末までに1回目接種**しないと間に合わない  
身近な問題として周囲のかたへ情報提供をお願いします